



平成26年3月26日

## 平成25年度公立高等学校における 教育課程の編成・実施状況調査の結果について

文部科学省では、高等学校教育に関する政策の企画、立案等のために、標記調査を実施しています（前回調査は平成22年度）。このたび、その結果を取りまとめましたので、公表します。

### 1. 調査内容

#### (1) 調査対象

全ての公立高等学校、中等教育学校後期課程の平成25年度計画について  
(一部平成24年度実績を含む。)

※ 新学習指導要領に基づく教育課程は、平成25年度入学者から全面実施。  
なお、学習指導要領の総則（各教科等に共通する事項）については、  
平成22年度から実施。

#### (2) 調査手法

都道府県・指定都市教育委員会を通して調査を実施

#### (3) 調査期間

平成25年8月19日～平成25年10月18日

### 2. 調査結果のポイント

次ページ以降のとおり

<担当> 文部科学省初等中等教育局教育課程課  
教育課程企画室 橋田、磯野  
03-5253-4111 (代表) (内線2369)

調査結果のポイント ※（ ）内は前回の調査結果

○ 卒業に必要な修得単位数、履修単位数の状況（別添pp. 2-3）

平成25年度入学者に卒業までに修得させる単位数について、学習指導要領に定める最低基準である74単位を超えて設定している学科の割合は、

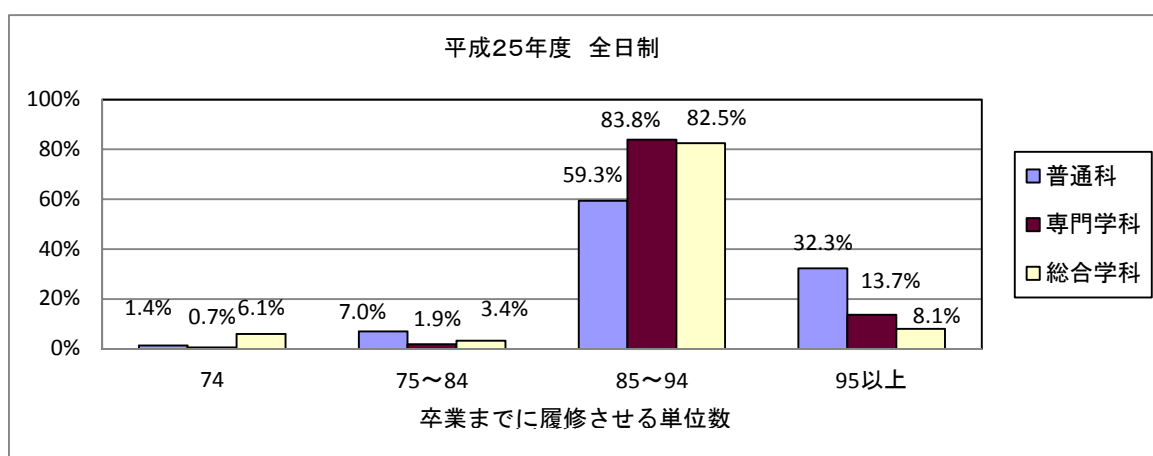
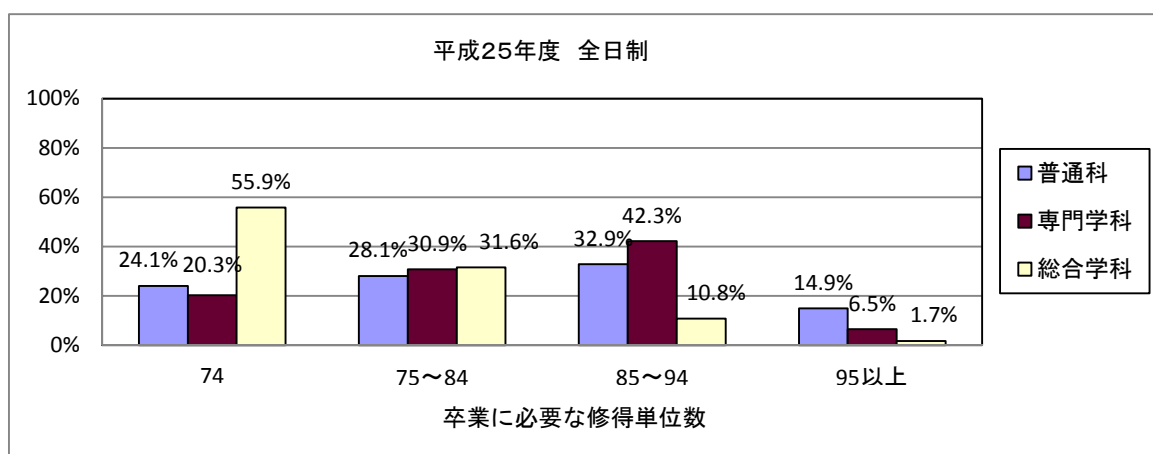
- ・ 全日制課程の普通科において 75.9%（76.6%）
- ・ 同専門学科において 79.7%（79.7%）
- ・ 同総合学科において 44.1%（41.2%）

である。

また、平成25年度入学者に卒業までに履修させる単位数について、学習指導要領に定める最低基準である74単位を超えて設定している学科の割合は、

- ・ 全日制課程の普通科において 98.6%（98.6%）
- ・ 同専門学科において 99.3%（99.1%）
- ・ 同総合学科において 93.9%（91.8%）

である。



○ 週当たりの授業時数の状況（別添 p. 4）

平成25年度入学者の今年度の週当たりの授業時数については、30～32単位時間と設定している学科の割合が最も高く、

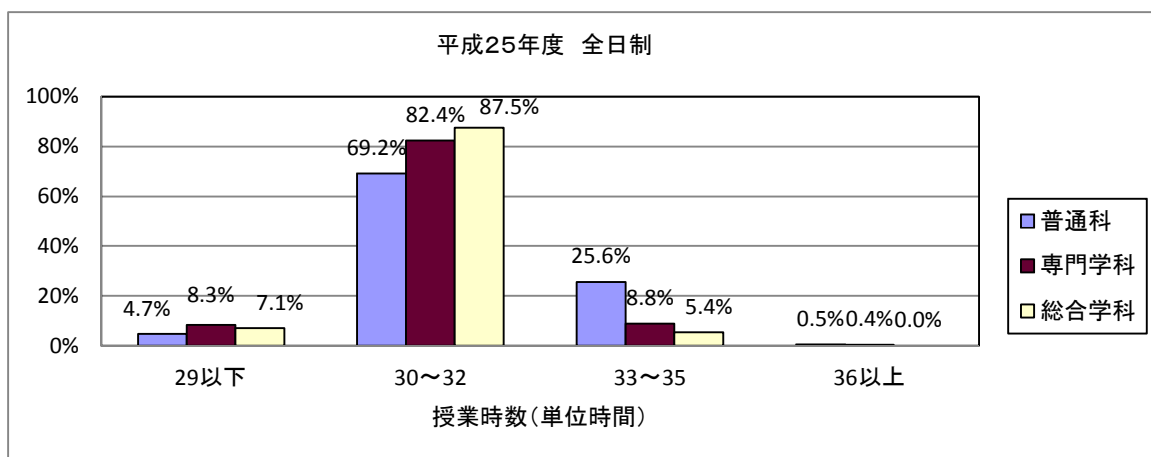
- ・ 全日制課程の普通科において 69.2%（74.0%）
- ・ 同専門学科において 82.4%（83.7%）
- ・ 同総合学科において 87.5%（89.0%）

である。

なお、週当たりの授業時数が33時間以上の学科の割合が、

- ・ 全日制課程の普通科において 26.1%（20.3%）
- ・ 同専門学科において 9.2%（6.8%）
- ・ 同総合学科において 5.4%（5.0%）

と前回調査よりも増えている。

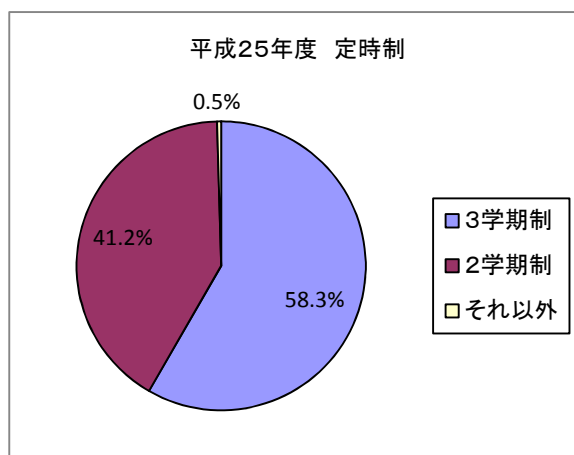
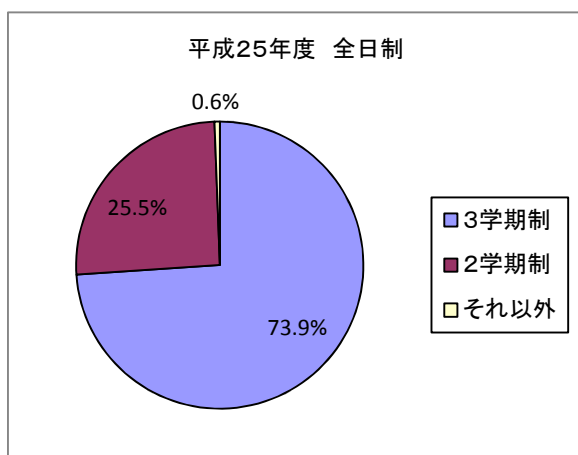


○ 学期の区分の状況（別添 p. 6）

平成25年度に、3学期制を採用する公立高等学校の割合は、全日制課程において73.9%（70.6%）、定時制課程において58.3%（56.7%）である。

2学期制を採用する公立高等学校の割合は、全日制課程において25.5%（28.6%）、定時制課程において41.2%（42.7%）である。

前回調査時（平成22年度）と比べて、全日制・定時制課程ともに、3学期制を採用する学校の割合が増加し、2学期制を採用する学校の割合が減少している。



○ 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導の実施状況(別添p. 15)

平成24年度における義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導の実施状況について、①必履修教科・科目の「標準単位数を超えて増加して配当」することによる指導と、②「学校設定科目等の履修後、必履修教科・科目を履修」させることによる指導の2点について調査したところ、①の回答が、各学科においてほとんどの教科・科目について多かった。特に全日制課程の普通科及び定時制課程の普通科でその割合が高くなっている。

「標準単位数を超えて増加して配当」した具体的な教科としては、国語、数学、外国語の割合が比較的高く、例えば、全日制課程の普通科では、国語が31.5%、数学が26.7%、外国語のうちコミュニケーション英語基礎について4.9%、それ以外について24.3%となっている。

また、定時制課程の普通科では、国語が36.3%、数学が53.3%、外国語のうちコミュニケーション英語基礎について10.1%、それ以外について36.6%となっている。

[必履修教科・科目について「標準単位数を超えて増加して配当」することにより指導を実施した学科の割合]

